

# コミュニケーションと社会 —コンテクストと想像力—

東北文教大学

担当：澤 恩嬉

# 本日の内容

- 間接発話行為
- コンテキストとコミュニケーション
- コンテキストと想像力
- 他者への配慮—想像力の問題—

# あなたはどうか答えますか？

□ 路上で見知らぬ人から、

「すみません、時計持っていますか？」と聞かれました。

A：すみません、時計持っていますか。

B：

# 発話の意図は何でしょう

2時25分です。

【発話の意図に  
対する答え】



時計、持って  
ますか？  
(実際の会話)

【間接的に表現】

今の時刻を教えて  
欲しい  
(発話の意図)

理解

# 理解に至るプロセス

A : 「日曜日に映画に行かない？」

映画には行けない

B : 「月曜日、レポートの締め切りなんだよね」

## 【Aの思考プロセス】

- ①一般にレポートを書くにはかなり時間がかかる
- ②多分Bは日曜日もレポートを書かなくてはならないのだろう
- ③映画に行くにはかなりの時間が取られる
- ④このようなことから考えて、Bは映画に行けない可能性が高い
- ⑤つまり、Bの発話は「行けない」ということを間接的に意味していると解釈すべきだ

# 【間接発話行為】

- 私たちの日常のコミュニケーションでは、このように自分の言いたいことをそのまま表現するのではなく、他の表現を使って間接的に表すことがよくある。このような発話行為のことを「**間接発話行為**」という。
- 発話の意図を適切に理解するためには、**その状況についての「知識」**が不可欠であり、その「**知識**」を共有していなければならない。

# コンテキストとは

■ **コンテキスト** (Context) とは、コミュニケーションが行われる前後の文脈や状況・場面のこと

○ 日本社会 → **高コンテキスト**の社会

：何を言ったかより、どのような状況で言ったかが重視される → はっきり言葉に表すことを控えるコミュニケーションスタイル（「察し」、「以心伝心」など）

○ アメリカ社会 → **低コンテキスト**の社会

：どのような状況で言ったかより、何を言ったかが重視される → すべて口に出して相手に伝えるコミュニケーションスタイル

日本  
韓国  
台湾  
中国  
アラブ  
ギリシャ  
メキシコ  
スペイン  
イタリア  
フランス  
フランス系カナダ  
英国系カナダ  
英国  
アメリカ  
スカンジナビア  
ドイツ

高コンテクスト文化

「いちいち言わなくちゃわからないの!？」  
「、、、。気がつかなくてすみません。。」

「いちいち言わなくちゃわからないの!？」  
「はい、もちろんそうです!」

低コンテクスト文化



# 発話意図の解釈の差の例

A : 「日曜日に映画に行かない？」

B : 「月曜日、レポートの締め切りなんだよね」

A1 : 「そっかー、残念だね。また今度ね！」

A2 : 「大変だね〜！ で、映画どうする？」

※異文化コミュニケーションでは理解の仕方にギャップが生じ、戸惑うことがある

# 異文化の中では伝わりにくい表現

## □ 本当はどっち？

今度うちに  
遊びに来て  
ね！

そのうちご飯  
行こうね！



本当に行って  
いいかな？

いつ誘って  
くれるかな～

# 同じ文化同士でも誤解しやすい言語表現

## □ 誤解を招きやすい言語表現：

「すみません」

謝り？感謝？ それとも？

「いいです」「大丈夫です」

良い？良くない？要る？要らない？

# コミュニケーションの機能

□情報の伝達や意思の疎通

□相手と良好な関係を築いたり維持する

→対人関係を意識した言語行動

人間には文法的に正しい文を作る言語知識だけでなく、  
コミュニケーションの目的や場面に適切なメッセージを  
生成できる能力とそれを理解する能力がある



相手の気持ちや立場に「配慮」を示す言い方をする

# トイレの貼り紙



**トイレはきれいに  
使いましょう**

# あるコンビニのトイレの貼り紙



いつもきれいに  
ご使用頂き  
ありがとうございます  
ございます

# コミュニケーションのキーワード

- コミュニケーションは、聞き手に対する「**配慮**」とそれを可能にする「**想像力**」が重要である。
  - 「**配慮**」とは、その場の機微を理解しその場にふさわしい言動をとる「**能力**」である。
- ※**想像力に基づく配慮**こそが私たちが「分かり合える」キーワードである。

# 教室での授業では？

- 他の人の意見や考えを聞くことで、視野を広げ、気づきを得ることができる
- 一人では難しいと感じる課題でもグループの力で解決できることがある



ありがとうございました。